

村上正志院長に訊く

構成／希瀬本夕紀 医療ジャーナリスト

超高濃度ビタミンC点滴療法を主に 抗酸化力と免疫力を重視した統合医療を展開

——あきらめないがん治療

「がん難民」をつくらないために



村上正志(むらかみ・まさし)

医療法人貴正会 村上内科医院理事長、日本医師会認定産業医、日本抗加齢医学会専門医、点滴療法研究会高濃度ビタミンC点滴療法認定医。
1950年山口県生まれ、京都府立医科大学卒業。京都府立医科大学にて消化器内科専攻。1982年村上内科医院開設（臨床医でありながら研究にも携わる）。1988年医学博士号取得。母校の吉川教授（現京都府立医科大学学長）のアンチエイジングに興味を持ち、各種学会、研究会に出席。2005年抗加齢医学会の専門医になり、京都では珍しいアンチエイジング医学を加えた医療を開始。抗酸化物質であるビタミンCの効果は十分に理解していたため、2007年よりビタミンC点滴療法を開始。点滴療法研究会に所属し、高濃度ビタミンC点滴療法を中心に、副作用の少ない統合医療で、がんに苦しんでいる患者に希望を与え、QOL（生活の質）が向上するよう積極的に支援している。

京都府京都市の山科区は、同市を構成する11の行政区の1つで、市の東側にある山科盆地の北部と、周辺の山地を区の範囲としています。その山科区の交通の要衝であるJR・京阪「山科駅」から徒歩約10分、京阪「四ノ宮駅」から1〜2分の場所に、今回、登場する村上内科医院があります。

患者家族の気持ちになり、ベストの対応を心掛ける

——まずは、村上先生ががん治療に携わるようになった経緯から教えてください。

村上 アンチエイジングがマスコミに取り上げられた頃、私の若いときの研究室のボスだった吉川教授（現京都府立医科大学学長）が、アンチエイジングの第一人者として多方面で活躍していました。それで、抗加齢医学会などいろいろな学会・研究会に出席したり研究したりして、とうとう難しい試験を受けて抗加齢医学会の専門医になりました。そして、本格的にアンチエイジング医学を取り入れた最新治療を始めました。今までの医学は、病気を見つけて病気を治す治療だったのですがアンチエイジング医学は、病気にならな